

田中康夫知事あいさつ

長野県で県知事を務めております、田中康夫でございます。

本日は、県内各地また、県外から多くの皆様に集まっていただき、大変嬉しく思っております。私が県知事になりまして、3年程になりますが、皆様のお手元にお配りした資料の中に、少し、お金のない長野県には大変立派なパンフレットが入っておりますが、これは、私が就任した時に、職員から説明を受けました時に、長野県にはこんなに多くのすばらしい農作物が、畜産物も含めてあるのだということに改めて深い感慨を受けました。

しかしながら、大変にすばらしい農作物がありながら、必ずしも、長野県というのは、それをアピールする仕方が少し控えめだったものですから、あまり得意ではございませんでした。あの、それと相前後いたしまして、皆さんのもうご存知だとは思いますが、この、確かさであったり、安心であったり、こうしたことを大変に世間が求めるようになってきたわけでございます。今日は、改めて、後で、この場で田崎真也さん、玉村豊男さん、あるいは小山裕久さんによって、皆さんヘインスパイアする話が行われるかと思えますけれども、私たち長野県はそうした生産者の地道な努力というもの、まさに一人の消費者としても確かさを求めている方々の努力というものが、客観的に評価され報われるようなお手伝いをすべきではないかと、こうした考え方の中から、長野県は原産地呼称管理制度というものを設けたわけでございます。これは、多くの方のご協力やご尽力によりまして、この春から日本酒とワインに関して始まっております。原産地呼称管理制度というものは、きちんと、その、どのような場所で栽培された穀物であったり果物であるか、あるいは水であるかと、また、その上でどのような醸造方法をしているかということを確認した上で、なお、その上で私どもが自信を持って消費者の方にお勧めできるものを確立をしていこうとするものであります。これは、今後、ワイン、日本酒に限らず多くの品目に拡大していければという夢を持っております。このことは、決して一部の限られた生産者のみを優遇するということではございません。県内の非常に意欲のある生産者がおりまして、しかしながら、その生産者と消費者の間には大変に多くの経路があるがために、その純粹なる想いというものが直接伝わりにくいという弊害がございました。これは、長野県に限ったことではなく、日本全体の大きな問題ではなろうかと思えます。これは、あの、流通経路を明確にするというようなことによって、解消されるわけではなく、やはり、そのような方々の商品というものを客観的に評価をさせていただくということでございます。それは繰り返しますが、一部の限られた生産者のみを優遇することではございませんので、そのような方々がお作りになられるものが評価をされることによって、ある意味では、長野県全体のより多くの方々に手ごろな形で味わっていただける農作物や畜産物自体をも高い評価を市場で得られる形にしていくものであらうと考えております。今日はあわせて、本日ご協力をいただいた醸造メーカーの方々、あるいは、後ほど皆様にはお食事を味わっていただきますが、長野県の多くの生産者の地点を記したパンフレットも入っております。昨年同じくこの場所におきまして、関東圏の知事会議というものがございまして、その時に長野県の、全て飲料も含めて原産であるものを用いてお料理を知事の方々に提供するというを行いました。今日このようなものが入っておりますが、こちらもそのような時から始めましたことを更に充実をさせまして、今日、皆さんに、ワインや日本酒だけでなく、長野県の優れた生産者の商品をじかに味わっていただく形になっております。そして、あの、本日はご存知のように、フランス食品振興会という私たちの原産地呼称管理の歩みよりも、さらに歴史の長い、そしてそれは歴史のうえに安住することなく、常に真摯の気性を持たれて、まさに、フランスのみならず、

世界の、私たちが望む食品というものの確立に尽力されてこられている、フランス食品振興会の日本代表でもあります、ジャン - シャルル・クルーアンさんにもお越しいただきまして、この長野県から、日本、そして世界へと発する原産地呼称管理に関しても、お祝いに駆けつけていただいたことを改めて敬意を表したいと思います。

どうぞ、この後のシンポジウムもそして、また試飲も、そしてまたお食事も時間の許す限り、ごゆるりとお楽しみいただければ、これに勝る私のサーバントとしての喜びはございません。どうぞよろしく願いいたします。